

重症心不全・移植専攻医育成プログラム 改変のお知らせ

大阪大学循環器内科では、2015 年度に第 1 期生を迎えて以来、重症心不全・移植専攻医育成プログラムを 11 年間にわたり継続し、全国 21 施設から 23 名の若手医師に研修の機会を提供してまいりました。重症心不全・心臓移植症例の経験に加えて、系統的な講義やカンファレンスなど、多面的な学習環境を整備してまいりました。2025 年度も鹿児島大学より 1 名が参加し、実践的な研修を行っていただいております。

一方、この 10 年で重症心不全診療は大きく進化しました。SGLT2 阻害薬をはじめとした基盤薬物治療の拡充、TEER を中心とした構造的心疾患治療の進歩、心筋特異的薬剤の登場など、治療体系は大きく広がっています。また、年間心臓移植件数は 100 件を超える一方、Destination Therapy 保険適応の拡大に伴い、移植登録をめぐる状況も変化してきました。

こうした環境変化を踏まえ、2026 年度はプログラムを一旦休止し、現代の重症心不全診療に即した内容へ全面的に改訂いたします。新プログラムでは、心臓移植、重症心不全管理、多様な補助循環治療、心筋症診療などを体系的に学べるカリキュラムを構築し、2027 年度の再開講を目指します。

これまで本プログラムに多大なご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。今後とも大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025 年 11 月 27 日
大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学
坂田 泰史